

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100170		
法人名	有限会社 与苑		
事業所名	グループホーム 与苑	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県 宮崎市 大字 広原 312-1		
自己評価作成日	平成24年7月30日	評価結果市町村受理日	平成24年9月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590100170&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成24年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様を最優先にできるよう心がけ、訴えや心の思いに声を傾け、地域の方々にも気軽に遊びに来て頂けるよう、回覧板等にて行事等を周知し、家族の方々とも関わりを大切に、情報伝達が密にできるよう、取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景の中にホームは立地し、敷地内にはビニールハウスも設置され、利用者と一緒に野菜や果物を育てたり、ハウス内に洗濯物干し場があり、利用者が干したりするなど、ホームは日常の暮らしを大事にし、利用者支援に努めている。昨年、施設長や管理者の交代があったが、現在、法人代表者の交代、ホームの名称変更とともに、理念の再作成・職員教育に力を注ぎ、ホームとして再スタートをきる意気込みであり、今後、更に良いサービスの提供ができるよう、取り組んでいる最中である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所全体としての基本的な理念である。地域との関係性を重視し、地域密着型サービスの理念となっている。	家庭的な雰囲気での介護、プライバシーや権利・個人の尊重について、地域の中での暮らしの支援が定められた理念となっている。		現在の理念は、前管理者が定め、職員間での共感がないため、近く全職員により再度、理念を作成する予定である。現状に沿った、全職員で共感・共有し、実践できる理念の作成に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入し、回覧板等で地域行事の情報収集に努めている。 夏祭り、クリスマス会等に、地域からの参加者が多く、地域との交流ができています。	自治会に加入し、地区の行事(敬老会、災害訓練)にも参加をしている。また、ホームの行事(夏祭り、クリスマス会)に、地域の方の参加もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元高校の福祉科の学生実習を受け入れ、認知症の理解や支援を広げて行くようにしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、開催しており、民生委員・地域包括支援センター・住吉地区社協、各ユニットの家族に参加して頂き、報告や話し合いを行い、意見を頂き、サービスの向上に活かしている。	定期的開催し、民生委員、地域包括支援センター、家族等の参加があり、活動状況や運営に関する意見を求め、ホームの行事や日々の運営に生かしている。	会議への区長の参加がないため、参加の声かけ、調整に期待したい。また、議事録は回覧をしているが、確認した職員の押印があると、漏れもなく、全職員が把握できると思われるので実行されることへも期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの研修会を通じて、運営状況等の課題について、相談やアドバイスをもらっている。 市の担当者からも指導を受けている。	昨年、管理者・施設長の交代があり、市町村担当者に相談をしており、ホームの運営について意見をもらうなど協力関係作りに努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、玄関や居室には鍵をかけてはいない。職員は、鍵をかけることの弊害を理解している。	玄関の施錠は、日中は行っていないが、外柵の門扉は終日施錠となっており、不審者対策で行っている。身体拘束の外部研修、復命研修を行い、身体拘束の具体的な行為、弊害について勉強をしている。	地域の方の気軽な来訪も想定し、日中の門扉の開錠に期待したい。また、不審者対策でも、日中は職員も複数勤務しているので、検討をお願いしたい。身体拘束については、拘束の三原則など、全職員がきちんと把握できるような取組に期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修等に参加し、虐待防止については苑内研修会を行うとともに、勉強会を行った。ミーティング・申し送り時にも学ぶ機会を持ち、スタッフのストレスの有無に目を向けながら、虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入職時、新人オリエンテーションの中で説明し、必要性について考え、理解を深めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・運営規定・重要事項説明書に基づき、説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会があった時、利用者様の状況報告・家族からの要望を聞き、記録に残している。苦情、意見などがあった際には、速やかに話し合い、サービスの反映につなげている。	家族会を開催し、ホームに対しての意見を出してもらい、職員ミーティングなどで共有し、改善につなげている。電話の対応など、意見をいただき、改善ができた。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の苑内勉強会、ユニット毎のミーティングで、自由に意見を出してもらっている。また、年1回は個別面接を行い、意見や要望等を聞いている途中である。	全職員が自己評価シートを作成し、目標に向けて取り組んでいる。シートの作成とともに、管理者や施設長と面談を行い、意見や希望を伝えている。ミーティングなど、意見の出しやすい雰囲気作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人のスキルアップの為、自己目標を立て、取り組んでもらっている。個々の個性を高めながら仕事ができるよう、研修等の参加要望時は勤務調整を行い、充実感や満足感を持って働けるようにして、意見等を管理者が評価することで、充実感や満足感をもって働けるよう努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数、資格等を考慮し、外部の研修に参加するよう促している。また、研修参加後は、復命等で苑内研修を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種のネットワークづくりの勉強会などに参加している。地域運営推進会議に、それぞれ参加するよう声かけを行っている。苑外での研修等で、情報交換、交流を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族と事前に話し合える場を設け、不安・困っていること、解決方法を話し合い、安心して利用できるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望をしっかりと聞き、場合によっては訪問し、利用までの事前調査を行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、本人と家族にとって、どのようなサービスが一番適しているかを見極め、本人にとって最も適したサービスを受けるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ目線に立ち、一方的にサービスを提供するのではなく、気分や体調の変化を察し、臨機応変に対応を心がけている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時、利用者の状況報告を行い、家族の希望・要望を聞いたり、どのように支援を行うべきか話し合えるよう努め、情報交換も行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室に行ったり、馴染みの場所にも出かけたり、いつでも面会出来るよう制限は作らず、友達が気軽に面会出来るようにしている。	家族の協力の下、行きつけの美容室を利用したり、ホームの支援で、なじみのショッピングセンターに買い物に行くなど、関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事の参加は、全員で参加できるよう、レベルに合わせたレクリエーション、また、トラブルがあった場合すぐ仲裁に入り、関係が損なわれないよう支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了しても、思い出の写真があった場合、訪問して、経過等を聞いて相談にのっている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の要望をゆっくりと傾聴し、希望を訴えられる利用者一人ひとりの個性に合わせた生活が送れるよう取り組んでいる。	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)シートの一部活用も取り入れ、利用者の意向や希望、個性に合わせ、生活が送れるよう努めている。		利用者の意向や希望を更に把握するため、現在のアセスメントで良いか、検討をお願いしたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より情報を得て、生活歴や生活環境、趣味などの把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の日々の記録に全員目を通し、観察、状態の変化など、いち早く把握するよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職場におけるチームワークの意義を全員で考え、共通の情報を得ながらケアが行えるよう、介護計画に沿ってケアを行っている。	利用者ごとの担当職員とともに、月1回のモニタリングを実施。また、ミーティングの中で、ミニカンファレンスを行い、家族の意見を聴取しながら、計画の作成を行っている。3か月での見直しを基本とし、期間内でも変化のある方は、随時計画の変更を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを記録し、職員間で共有しながら実践、介護計画に沿ったケアを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ家族の面会時には、利用者さんの状況等を説明し、家族との信頼関係を保つよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の心身の向上を目的として、公園、地区の行事等に出向き、地域と交流できるよう努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、鈴木クリニックに往診に来て頂いている。急変があれば、訪問看護(なのはな)の指示を仰いでいる。鈴木クリニックとの連携の下に、適切と思われる医療機関への受診を行っている。	協力医療機関もあるが、基本は掛かりつけ医への受診を促している。利用者によっては、往診を受けたり、また、訪問看護との連携を図り、適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に変化があった場合、訪問看護(なのはな)に報告、相談し、適切な対応ができるよう連携を取っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、定期的に面会に行き、Dr.、看護師共に症状説明を聞き、早期に退院できるよう努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に、急変時の対応について、終末期をどのように迎えたいか、十分に家族と話し合っており、事業所でできることを説明しながら、関係者と共に連携を図っている。	重要事項に重度化および看取りに関する指針を定め、説明を行い、同意書も作成している。指針では、詳細に各職種の役割も具体的に定められていた。今までに、実際に看取りを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアル作成。緊急時、連絡網を作成し、勉強会等で初期対応の訓練を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年2回(1月、8月)、防災、通報訓練を実施している。	例年1月と8月に訓練を行うが、今年は9月に実施する予定。消防署、消防団、近所の方の参加もある。また、別に年2回程度、ホーム内で、災害に対する勉強会も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、言葉使いに注意して、プライバシーを損ねないよう対応している。		なかよしケア(なれなれしいケア)はしないと定めて、言葉使いや居室に入る時は、ノックの徹底、トイレではカーテンを必ず閉めるよう取り組んでいるが、一つのユニットでは家族の要請もあり、「ちゃん」付けで利用者と呼んでいる。	人生の先輩である利用者に対しての言葉かけなどについて、研修等を行い、全職員で再度確認、共有していくことを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの性格を把握し、本人の思いや希望が選択できるよう、声かけに心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先させることなく、利用者さんのペースにてケアするよう心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日によって、自分の好きな服を本人に選んで頂き、身だしなみや洗面所に立ち、くし等を用意しておしゃれを楽しんで頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に盛り付け、片付け、月に2回は利用者さんと共に作れる献立を考え、それを実行している。		敷地内の別事業所で調理を行い、盛りつけなどはホームで行っている。献立にリクエストを盛り込んだり、月2回はホームで、利用者とともに調理を行ったり、月1回は外食に行く取組を行っている。盛りつけや配ぜん、片づけに利用者も参加し、食事が楽しめるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は、毎日、利用者さんに応じた栄養バランスに注意し、状態に応じてはトロミを利用し、キザミ食を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの徹底。夕食後、義歯はポリデント洗浄を行っている(毎日)。洗面所まで行けない人は、口腔ケア用ウェットティッシュで行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、時間毎にトイレ誘導を行っている。		排せつチェック表を活用し、トイレ誘導を行っている。入居前に放尿のあった利用者が、トイレ誘導により、日中は普通のパンツ着用をするまでに改善ができた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中は、トイレ誘導に力を入れている。水分補給や運動を心がけている。必要に応じて、Dr. の指示にて下剤を服用している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、原則週3回としている。入浴は、午前中、午後にゆっくりと入浴できるよう配慮している。シャワー浴希望者には、随時対応している。		週3回、日中をかけて個別にゆっくりと入浴できるように支援を行っている。男性の職員に気をつかう利用者には、女性職員を配置するなど、入浴が気兼ねなく楽しめるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんに応じて、午前中9:00頃まで休みたい人は休ませ、午後、昼寝ができるよう声掛けして、自室で休ませている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が把握できるよう、ファイルを作成し、薬の目的、副作用、用法、内服変更時、その都度ミーティングを行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レベルに応じて、スタッフが間に入り、活力、生き甲斐を見いだすよう、本人の好きな事で支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力により、週1回、必ずドライブに出かける方もおられる。散歩、ドライブ、外食等、利用者に合わせて行っている。		行事での外出や気候の良い時は、近所を散歩したり、利用者によっては家族の協力の下、週1回外出をしたり、外食の機会をつくるなどの支援を行っている。帰宅願望の強い利用者には、夕方、ドライブに出かけるなどの取組も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が現金を持つことで、安心される方は殆どいない状態であるが、おやつ買い等、自分の好きなものを買に行き、お金の使える人は一人くらいしかいない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠距離の方は、月に1回手紙が来るが、苑に携帯電話を家族が用意され。必要な時は電話したりしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じるよう、季節の花をフロアのテーブルに置いたり、トイレなど、不快な気持ちにならないよう毎日掃除して、清潔に努めている。	居間は天井も高く圧迫感もない。トイレの掃除も毎日行い、匂いも気にならない。季節ごとに花を飾ったり、行事の写真を掲示するなど、利用者がゆっくりと過ごせるよう配慮をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにテーブル席を2ヶ所設け、気の合った利用者同士がコーヒー等を飲んで過ごせるよう配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で使っていた物や仏壇等、本人の希望に応じて、安心して生活できるよう工夫している。	利用者の個性が反映できるよう、環境作りが行われている。居室に物があると不穩になる利用者の居室では、ベッド以外は物入れに収納されている。また、毎日、持ち込まれた仏壇を拝む利用者には、お供えの準備を職員が手伝っている。畳が必要な利用者には、準備をし、利用者が個別性を発揮し、居心地良く過ごせるよう支援をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない空間でテレビを見たり、読書をしたり、自立した生活が送れるよう工夫している。			